

日本「源内」vs フランス「Albert API」：政府AI基盤の国家戦略比較

日仏両国は巨大IT企業への技術依存を抑制し、行政のデジタル刷新を図るため政府AI基盤を構築しました。

日本は現場の業務効率化に直結する垂直統合型アプリを採用し、フランスは国家全体のデジタル製品に接続できる水平統合型APIゲートウェイを選択しています。

日本：ガバメントAI「源内」（業務密着・垂直統合型）

アプリ・エージェント完結型の垂直統合システム



職員用ポータルと40以上の行政特化型マイクロサービスをワンストップで提供。



中央省庁のバックオフィス業務改革（AX）に特化



国会答弁作成や法令審査、バブコメ分類など負荷の高い内部業務を直接自動化。



国産7モデルの試用と全国900超の自治体への垂直展開



政府調達による国内AI産業の育成を図り、OSS公開で地方自治体へ展開。



フランス：「Albert API」（主権重視・水平共通化型）

OpenAI互換の中央集約型推論APIゲートウェイ



業界標準仕様に準拠し、70以上の政府デジタル製品が簡単に接続可能。



対市民窓口の支援と「Human-in-the-loop」原則



France Services窓口の回答期間を半減させつつ、職員の最終介入を絶対義務化。

厳格な主権クラウド (SecNumCloud) とデータ保持ゼロ



米国法等の域外適用リスクを完全遮断
欧州オープンモデルを中心に運用。

比較項目	日本：ガバメントAI「源内」	フランス：Albert API
設計思想	アプリケーション垂直統合型（現場直結）	APIファースト・推論集約型（水平共通化）
主なターゲット	中央省庁の行政官（バックオフィス）	窓口相談員・政府デジタル開発者
データ主権対策	ガバメントクラウド＋国産クラウド実証	SecNumCloud認証＋推論パス上のデータ保持ゼロ